

## ■ 全体講評

午後 I 試験は、3 問中 2 問の選択になります。問 1 は、顧客管理システムの監査についての問題、問 2 は、運用の外部委託の監査についての問題、問 3 は、プロジェクト管理システムの有効性の監査についての問題です。このように、業種やテーマが広範囲にまたがって出題されています。自分の経験や知識の活かせるテーマを選んで解答することが大事ですが、あまり専門にこだわらずに、解答しやすい問題を選んでください。問 1 は、ネット販売ということで、比較的取り組みやすいのか大多数の方がこれを選んでいきます。問 1、問 2 を選択する人が多数を占めています。

問題によって平均点にかなり違いがあります。例えば、問 2 は、外部委託の監査についての問題ですが、監査の知識が必要で難問です。不正解者も多く、低得点者が目立ちます。一方問 3 は、全体に答えやすい問題で解答を絞りやすく高得点が目立ちます。満点者も多い問題です。

試験では、問題を読んですばやく難易度を推定し、問題を選択する適切な判断が望まれます。それぞれ長文の問題を読んで、すぐに設問に答えなければならないので、時間が足りません。短時間で解答しやすい問題を選ぶのも、能力の一つになります。設問をよく読んで「何が要求されているか」をすばやく理解することが重要です。そのためには、いきなり問題文を読むのではなく、まず設問から読むことが大切です。設問を読みながらポイントとなる場所にアンダーラインを引いて、設問内容を意識しながら問題文を読むことが重要です。

出題者の意図をよく考えて解答することも重要です。設問で何が問われているかを必ず確認し、ポイントになる内容を分かりやすく記述することです。今回の公開模試でも、設問で問われていないことを答えているものが多く見られました。

例えば、問 1 設問 1 は「リスクを述べよ」という設問です。ここで「〇〇ができる」などと解決策を書くようでは正解にはなりません。問 2 設問 1 も同様です。リスク表現で書けという設問に解決策を書くようでは不正解になります。十分に注意しましょう。

試験当日は、集中力、精神力、体力の勝負になるので、最後まであきらめずに必ず合格するという強い意識をもって臨むようにしましょう。

## 問1 顧客管理システムの監査

### 【採点基準】

#### 【設問1】

(1)与信枠を超えて注文が行えるリスクについて、(2)多額の架空注文を行うリスクについて、述べる。それぞれ解答例の趣旨にあった解答であれば各 10 点。その他は、基本的に 0 点。

#### 【設問2】

滞納を防ぐための統制について述べる。解答例どおりの表現であれば 10 点。それ以外は 0 点。

#### 【設問3】

追加の監査手続について述べる。解答例の趣旨にあった解答であれば 10 点。それ以外は、基本的に 0 点。

#### 【設問4】

不十分と思われる理由について述べる。解答例の趣旨にあった解答であれば 10 点。それ以外は、基本的に 0 点。

### 【講評】

ネット販売に関して、顧客管理と与信管理の問題です。一般論で解答する設問があり、いろいろな解答が考えられますが、あまり本筋と離れた解答でなければ正解とします。ネット販売という身近な事例で、答えやすい問題ですが、設問 4 は解答しにくい問題で正解者が少ない状況でした。

設問 1 では、(1)与信枠を超えて注文が行えるリスクについて考えます。解答は「複数のメールアドレスを使用して、与信枠を超えた注文を出す可能性がある」。

(2)多額の架空注文を行うリスクとしては、「オペレータが顧客登録をし、その与信枠を大きくして、大量の注文を出す可能性がある」です。(1)は「複数のメールアドレス」がキーワードになります。ここで「オペレータが与信枠を変更できる」と書くのは不正解です。(2)では「オペレータの不正」がキーワードになります。この用語があれば正解とします。いずれもリスクを述べる必要があるので、リスク表現でなければ不正解になります。気を付けてください。

設問 2 は、滞納を防ぐための統制を書きます。

模範解答は、「定期的に滞納者リストを出し、滞納者に対して督促を行う」です。問題文にはヒントがないので、一般論で答えることになります。考える際の制約がないので、いろいろな解答が考えられますが、滞納者を見つけ出すだけでなく、滞納を防ぐために「督促」に結びつけることまで書く必要があります。

ここで「回収が行われているか確認する」とか「未入金者からの注文を受け付けない」などという解答は、趣旨が違うので不正解です。

設問3では、「N社のオペレータに対する不正アクセス対策が十分かどうかを確認するために必要と思われる追加の監査手続」について考えます。

模範解答は「オペレータを辞めた人の登録が確実に削除されていることを顧客管理システムで確認する」ことです。キーワードは「辞めた人の登録削除」です。ほとんどの解答は正解でした。

ここで「退職と削除の日付を確認する」とか「退職者の操作ログを確認する」という解答は不正解です。

設問4では、「現在のアクセスログに関する統制では、不正アクセスを発見するには不十分」であるとした理由を考えます。

模範解答は、「ログについて適切な観点でチェックを行っているかを確認する統制が存在しない」です。

問題文(4)③に「ネット販売課長は、ログチェック表に基づいて正しくログチェックが行われていることを確認する」とあります。このログチェックが行われていても、それが形式的なチェックで終わる可能性があり、「内容をチェックするには不十分であること」を述べればよいでしょう。

「ログファイルの正確性を確認する」とか「オペレータの登録を確認する」とか具体的なチェックの内容を書いている解答は出題の意図と合わないので不正解になります。

## 問2 運用を外部委託している業務システムの監査

### 【採点基準】

#### 〔設問1〕

対象となるリスク内容を述べる。解答例どおりであれば10点。その他は、基本的に0点。

#### 〔設問2〕

例外作業時のリスクについて、(1)そのリスク内容を、(2)リスクを低減するコントロールを、それぞれ述べる。

解答例どおりの表現であれば各8点。その他は0点。

#### 〔設問3〕

想定されるケースについて述べる。解答例どおりであれば8点。その他は、基本的に0点。

#### 〔設問4〕

有効性評価が不十分であると考えた、(1)不十分な理由について、(2)追加で実施すべき監査手続について、それぞれ述べる。解答例どおりであれば各8点。その他は、基本的に0点。

### 【講評】

資格試験の合格者登録に関する業務を外部委託している法人の監査に関する出題です。本文にヒントとなる文章が書かれていますが、監査手続など専門的な知識は必要なので、なかなか難問です。設問1、設問2は、難しい設問で、低得点者が目立ちました。設問4は、監査手続を書きますが、こちらも難問でした。

問題文が長くて読み取るのに時間がかかり、ヒントになる箇所を探し出すのに苦労するせいか、正解者は非常に少なく、低得点者が多い状況となりました。

設問1では、運用管理の権限と運用権限とを分離する理由はどのようなリスクに対応したものかを解答します。リスク内容を解答すればよいので、「C社の担当者が両方の権限をもつと、運用記録を改ざんして不正な操作をすることができてしまう」ことをリスクとして挙げればよいでしょう。ここで単に「不正操作・不正行為」では不十分です。「情報漏えい」、「機密情報の取得」などの不正行為もあるからです。「運用面での改ざん」がキーワードになります。管理者による操作ログの消去などの細かい面までは不要です。

リスク内容を書くことを求めているので、解決策を書くなどリスク表現でない場合は不正解にします。

設問2は、例外業務として発生する変更作業の作業手順についての設問です。

(1)例外作業時のリスクとは、口頭で受けた修正依頼の内容に誤りがあった場合に誤った内容がそのまま登録されることです。「別人が申請する・本人確認が出来ない」という解答は、問題文から推定できないので不正解です。

(2)そのリスクを低減するコントロールとは「依頼内容を裏付ける書類と比較して確認した上で作業依頼をする」ことです。

この書類として「最初の申請書」などを挙げていけばよいでしょう。「責任者や管理者が確認・承認する」という解答は不適切です。

設問2は、正解者が特に少ない状況でした。「修正依頼書が間違った場合」という内容がなかなか思いつかないようです。

設問3は、通常の資格登録業務において、付番された受付番号に対して入力実績がない場合を答える設問で、「書類不備や内容不備によって申請が受理されなかった場合」となります。これは比較的易しい解答でほとんど正解でした。ただし「同一人が申請している場合」など極端に特殊な状況は考えておりません。

設問4は、適切に作業が実施されるためのコントロールを監査する手続についての設問です。

(1)コントロールの有効性を評価するには不十分である理由を考えます。「手順を確認しただけでは作業内容

が正しいことを確認できない」という解答になります。  
「入力作業の内容確認」が必要です。

(2)追加されるべき監査手続として「依頼内容と登録内容の突合確認をする」ことを考えます。コントロールの「有効性」がポイントになるので、形式的な監査ではないことを指摘すればよいと思います。ここでは具体的な細かい監査内容までは不要です。「改ざんのリスクがある」、「情報漏えいがある」などの個別の指摘は、不正解にしました。この設問は正解者がほとんどなく、低得点者が目立ちました。

### 問3 プロジェクト管理システムの有効性の監査

#### 【採点基準】

##### 【設問1】

漏れなく実績工数が入力されていることを確認するため、照合すべき帳票を二つ挙げる。二つを正しく解答した場合のみ6点。また、照合の観点を述べる。解答例と同様の場合7点。その他は、0点。

##### 【設問2】

(1)確実に把握する時点を、(2)その時点前には把握できない理由について、それぞれ解答します。解答例どおりの解答の場合各6点。その他は、基本的に0点。

##### 【設問3】

監査手続と監査要点を適切に解答する。  
それぞれが解答例どおりの解答の場合、監査手続:6点、  
監査要点:7点。その他は、基本的に0点。

##### 【設問4】

(1)プロジェクト名を、(2)その理由を、それぞれ挙げる。解答例どおりの解答の場合(1)5点、(2)7点。その他は、基本的に0点。

#### 【講評】

プロジェクト管理システムについて、三つのプロジェクトを比較して考える問題です。問題が分かりやすいので、解答は比較的易しく、正解者は多い状況です。高得点者が多い状況となりました。満点も続出しています。

設問3は、監査要点と監査手続の正しい理解が必要です。

設問1では、漏れなく実績工数が入力されていることを確認するため、照合すべき帳票としては、「個人毎工数集計表」、及び「個人毎勤務時間実績表」を挙げます。この二つを正しく解答した場合のみ正解とします。「プロジェクト毎工数集計表」は不正解です。

照合の観点としては、「プロジェクト作業時間の全てが個人毎工数集計表に入力されていること」を述べます。時間の合計が合っているかどうかを確認することです。ここでは「計画した予定工数をオーバーしないこと」の確

認ではありません。

設問2は、進捗管理機能について、(1)確実に把握する時点と、(2)その時点以前には把握できない理由について考えます。

(1)確実に把握する時点は「該当作業の成果物が承認されて登録されたとき」となります。「成果物の完成」がキーワードになります。「成果物が定義されたとき」ではありません。

(2)その時点以前では把握できない理由は「成果物が完成するまでは、作業者の主観による進捗が登録されるから」を書きます。「自己申告では客観性が欠けること」を指摘すればよいでしょう。

設問3は、早期解決のための支援機能が適切に動作していることを確認するための監査手続と監査要点に關しての設問です。

監査手続は「解決期限までに解決しなかった課題について、メール送信実績と照合する」となります。

監査要点は「解決期限を過ぎても未解決の課題について、リマインドメールが送信されていること」となります。

「支援機能として、メールが送信されていること」が監査の要点になります。監査目的「課題が解決したかどうか」は監査要点ではありませんのでご注意ください。

監査要点と監査手続の混乱がかなり多くの人にあります。監査要点を具体的な手続にすると監査手続になります。

設問4では、プロジェクト管理システムを有効に活用しているプロジェクトをA、B、Cの中から選び、理由を考えます。

(1)プロジェクトは、A。

(2)その理由は、「最大の目的である採算管理につながる工数管理機能が十分に利用されているから」となります。工数管理、進捗管理の両方を記入しても正解とします。簡単に解答が見つかり、ほぼ全員が正解です。

ここで「課題管理について」の記載をしても正解にはなりません。

以上